

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第3号（ナスミバエ）について

平成29年6～10月に与論島、沖永良部島及び徳之島のピーマン等で発生が確認されたナスミバエについて、奄美地域での発生地拡大が確認されました。

下記の防除対策を参考に被害防止とまん延防止に努めてください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（[www.jpnp.n.e.jp/kagoshima](http://www.jpnp.n.e.jp/kagoshima)）にも掲載しています。



令和3年度 技術情報第3号

1 対象病害虫 ナスミバエ

2 対象作物 トマト、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ（シマトウガラシ）、ナス等

3 発生確認状況

- (1) 瀬戸内町(加計呂麻島)ほか10か所のナス科作物で新たに発生が確認された(表1)。  
(2) 発生(寄生果)が確認された作物はトマトほか4作物で(表1)、これまでのところ、慣行防除がなされているトマト、ピーマン、トウガラシ等のほ場では目立った被害が確認されていない。

表1 ナスミバエの発生が新たに確認された場所

確認時期	発生確認場所	発生確認作物(寄生果実)
令和元年7月	瀬戸内町(加計呂麻島)	トマト
〃 9月	天城町	ミニトマト
〃 11月	瀬戸内町(請島)	ピーマン
令和2年6月	〃 (奄美大島本島)	ピーマン
〃 7月	奄美市 名瀬	トウガラシ
〃 8月	〃 笠利	ピーマン
〃 9月	〃 名瀬	ピーマン, シマトウガラシ
〃 10月	宇検村	シマトウガラシ
〃 11月	瀬戸内町(奄美大島本島)	トウガラシ
〃 11月	〃 (加計呂麻島)	シマトウガラシ
〃 12月	大和村	トウガラシ

注)侵入警戒調査及びミカンコミバエ種群初動調査の果実調査で確認

4 防除対策

- (1) 成虫の果実への産卵を防ぐには、防虫ネットで被覆するか、果実に袋がけをする。防虫ネットは目合い1.6mm以下を使用する。  
(2) ほ場の観察をきめ細かく行い、被害が疑われる果実や落下した果実、収穫しない果実は放置せず、速やかにビニール袋に入れる等して密封し、処分する。

- (3) 栽培終了後の株は放置せずに抜き取り，ビニール袋に入れる等して密封し，処分する。
- (4) ほ場内外の野生寄主植物（イヌホオズキ類，ホオズキ類，野良トマト等）は除去する。
- (5) ほ場周辺の藪地などナスミバエが生息しそうな場所にベイト剤（スピノエースベイト等）を散布することで，ほ場周辺の密度低下や侵入防止が期待できる。
- (6) トウガラシ類で被害が疑われる果実を発見した場合（図3，4），ジノテフラン水溶剤（スタークル顆粒水溶剤，アルバリン顆粒水溶剤）で初期防除に努める。

## 5 参考資料

ナスミバエの加害状況等（平成29年10月30日付平成29年度特殊報第1号より）



図1 ナスミバエ成虫



図2 ナスミバエ幼虫



図3 幼虫に食害されたピーマン果実



図4 幼虫に食害されたシマトウガラシ果実

## ナスミバエ

英名 : Solanum Fruit Fly  
学名 : *Bactrocera latifrons* (Hendel)

体長6mm位の小型のハエの一種で、寄主範囲はトウガラシ等ナス科植物の生果実に限られており、ミカンコミバエ種群やウリミバエと比較して増殖力は弱いとされている。

### 【発生地域】

東南アジア、台湾、ハワイ等

### 【主な寄主植物】

トウガラシ、ピーマン、ナス、トマト等ナス科植物の生果実、イヌホウズキ等野生のナス科植物が好適寄主として知られている。

### 【被害】

果実内でふ化した幼虫に食害されるが、海外では、通常防除が行われている栽培体系では被害が出ないとの報告があり、国内でも、農作物の被害の報告はない。

